



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1929, 11(4): 309-317

ISSUE DATE:

1929-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183580>

RIGHT:

泉及び河川の起原(石井清彦)

▲最新世界地圖(昭和四年版)内田寛一著 東京右文館發行

昭和三年十二月 金一圓

○*Proceedings of the Imperial Academy, Vol. IV.*

No. 10, 1928.

A Contribution to the Pre-Cambrian Stratigraphy

of South Manchuria. (Ocoji Aoji.)

○*Gerlands Beiträge zur Geophysik. Bd. XXI, Hft. 1.*

1929.

Zusammenschub der Erdrinde. (J. Geszt.)

○*The Mining Magazine, Vol. XL, No. 1, Jan. 1929.*

Greece : its Geology and Mineral Resources.

(D. A. Wray)

○東北帝國大學理學部地質學古生物學教室研究邦文報告 第

七號 二月 賣捌所 丸善 金一圓一〇錢

陸前國桃生郡小野川村川下り響介塚調査報告(松本彦七

郎)

△二萬五千分一地形圖 新版(熊本號)大矢野原、熊本、船津

網津、大津(以上昭和三年十二月)(熊本號)植木、宇土、

伊倉、御船(以上一月) 陸地測量部

○*ザナナス 第一卷第二號 二月*

館山澁底棲貝類調査(一)(藤田正)

○朝鮮炭田調査報告 第二卷 昭和二年十一月 朝鮮總督府

燃料選礦研究所(地質圖ノミ京城南米倉町朝鮮鐵業會ニ

テ發賣) 金二圓)

和順無煙炭々田調査報告(市村毅)

○朝鮮炭田調査報告 第三卷 昭和三年三月 朝鮮總督府燃

料選礦研究所

通川有煙炭々田調査報告(市村毅)

○地理教材研究 第十三輯 二月 東京目黒書店發行 金一

圓二〇錢

宿場町の研究(佐々木清彦)

世界の地理區(神田逸二)

秋田縣の地理區(柴田良一)

新高登山と其の地形地質(杉目妙光)

北海道、樺太雜記帳(西龜正夫)

滿洲瞥見(三村信男)

斷層崖と斷層線崖との特徴(富田芳郎)

地體構造の新説(帷子二郎)

伊太利、獨逸、丁抹及び諾威の聚落到就いて(田卷靜)

○昭和二年海洋氣象年報 神戸海洋氣象臺 昭和三年十二月

The mean atmospheric pressure cloudiness, air

temperature and sea surface temperature of the

North Pacific ocean and the neighbouring seas for

the year 1927. (佃十吉編)

雜誌

○地球學岡山支部近況

雜誌

三九

○第二十八回例會 昭和三年五月二十七日午前七時四十六分
岡山發上り列車に乘じ午前八時三十三分和氣驛下車直に自動
車にて久米郡吉岡村棚原嶺山に向ふ午前十時半到着事務所員
多數に迎へられ坑の内外を詳細案内され且晝食の饗應を受け
午後三時頃辭して歸途に就き七時頃岡山歸着解散せり其概略
は本誌第十卷第一號雜報欄を參照されし。

○第二十九回例會 六月十日午前九時より六高生物學教室に
於ける岡山博物學會にて次の講演を聴く、前回の續きなり來
會者四十三名

日本地史の梗概(完結) 六高 八木教授

○第三十回例會 七月一日午前九時より縣立商業に開會次の
講話ありたり、來會者二十三名

1、北米の地形概説

泉水富太郎君

2、滿洲に於ける馬賊の話

浦上 宗衛君

3、倉敷市の概観

淺野 一郎君

○第三十一回例會 九月十六日午前九時より縣立商業に開會
左の講演あり來會者二十七名

1、滿洲に於ける鐵道の現況と日本利權の推移

一商 浦上 宗衛君

2、孤島の生活

山陽高女 小館 軍三君

○第三十二回例會 十二月十八日午前六時五十分岡山發、伯備
線新見に至る今回新設開通したる伯備線に試乗を兼ね阿哲峽
(阿哲郡に入りての峽谷美は石灰岩の斷崖絶壁に紅葉の點綴
せるありて他に之に比較すべき所なし)の探勝をなす午前九
時三十九分新見驛に下車し同地高女の仲原君等に迎へられ自

動車にて直に阿哲郡本郷村の大理石切採場を視察す石材の美
にして大材の多きに一驚を喫し立派な標本の數種を得て新
見に引き返へし新見町の歡待を受け尙足を備中神代に延ばし
山崎博士の服部地溝帯并に其附近の紅葉の眺望を恣にして歸
途に就き午後七時頃岡山歸着解散す來會者十四人なりき

○第三十三回例會 十二月九日午前九時より縣立商業にて開
會來會者二十二名左記講演あり後文檢問題を中心として盛に
論議し午后三時散會せり

1、岩石學概論

六高 八木 教授

岡山を中心として本縣に例を取り實物標本を示され大に
得る所ありたり

2、支那西域及中亞細亞に於ける人文的景觀

兒島 泉水富太郎君

○第三十四回例會 二月七日午前九時より縣立商業に於て開
會來會者二十九名次の講演ありたり

1、領海に就て

師範 尾形 文雄君

2、大分縣石佛に就て

山陽高女 小館 軍三君

○ブラジルの河川

伯國は土地廣大で南大河州、サン

パウロ州、ミナス州及リオデジャネイロ州を除けば中北諸州
には鐵道、又道路が皆無といつてもよい。そこで自然河川
交通が唯一の手段に供される。サンフランシスコ河二、七一
二軒、リオダスグエーリヤ河六四七軒、ジャルアー河一、〇〇
〇軒、アグレ河一、九二七軒、アルス一、六六七軒、ウルグア
イ川五三〇軒、バラカイ河七一三軒いづれも舟の便がある。

汽船會社十九の中でロイドアラツレイロ社が最大で資本三萬
 コントス、所有汽船八十一隻、航路數十六、半官營である。第
 二位に一万千コントスの資本と航路九、汽船二十二隻を有す
 るコストエラ社がある。アマゾンリバー社ほもと英人の株主
 が大部分であつたけれども、近頃はアラツル人が持つものが
 多くなつた。汽船二十七隻、アマゾンの本支流を通じて十三
 の航路をもつてゐる。

アマゾン川、ウルガイ川、及ラブラタの上流パラガイ河及
 パラナ川は國際河川である。その交通狀況をみるに(一)ア
 マゾ、河流域は三百八十万平方籽アラツルの五分の三、本流
 三、二四〇籽、支流トカンチンス、シンゲー、タバジヨース
 マテイラ、ブルース、ネグロ、ブランコ、ジュルアー、シャ
 バリー、シャアラ、いづれも航行が出来定期航路の船が通
 る、海から溯航しうる地點左の如くである。

河 名	終 點	長 さ
タバシヨース川	イキイツーパ港	二四八籽
本 流	イキトス港	三、二四〇籽
ネグロ河	サンガプリエル港	七八五籽
マテイラ河	ホルトヴェリヨ港	一、一一七籽
トカンチンス河	アルコバサ	三八〇籽

河港としてはベレン、マナオス、オビドスをはじめイタイツ
 ーパ、サンタイザベル、ホルトアクレ等がある。
 サンフランシスコ河流域でもミナス州ピラボーア迄船が通
 る猶上流に定期が通ひ、パラグアイ河では、モンテビデオから

コロンバー軍港の間に定期がある。コロンバーには伯國の海
 軍工廠があつてボリビア及パラグアイに對する要港である。
 上記のベレン Belem はパラ Para と稱せられ、アマゾン
 本流の中こゝとマナオスとの築港が最新式である。

○ボリビアのチンチーヤ Chinchilla は栗鼠に似た
 小動物で毛皮の高價なるに依り廣く其名を知られて居る。紐
 育又は倫敦に於けるチンチーヤ製オペラコートの價は一萬磅
 乃至一萬五千磅の高價にして毛皮界のダイヤモンドと稱せら
 る。産地はボリビアを主とし北部ナリ、南部ヘルドであるが
 他邦での移植は失敗したので、原地製産を必要とする。近年
 濫獲したため逐次種族減退の兆があるので、飼育する必要に
 迫られてきた、今日はボリビアに七十萬弗の會社が出来て、
 之を飼育することになつた。もし成功すれば毛皮界に一大革
 命を起すであらう。

○昂齊線の開通

曩に報道した昂齊鐵道(洮昂鐵道の一
 部で東支鐵道の昂々溪から齊齊哈爾に至る鐵道)十八哩の營
 業を去月十二日から開始したといふ。本鐵道は露支兩國間に
 永年爭論されたもので本鐵道の開通は確に東支鐵道には大打
 撃を與へるものと見られてゐる。即ち北滿の豐厚は今迄東支
 鐵道によつて大部分消化せられたものであるが洮昂鐵道の開
 通によつて南下し遼東灣方面に輸送される計畫が著々進行し
 つつある状態になり北滿物資の爭奪が、東支鐵道浦鹽斯德、
 滿鐵大連の三港鼎立で激烈を極める事であらう。然し現在迄

は洮昂鐵道貨物は洮陽鐵道經由大連方面に出るのが多い。

○新しき理想的舗装の材料ビチュマルス

(KY生)

ビチュマルスは最近英國にて發明され、獨逸に於て改善され次で佛國に於て工業化され、最近米國に渡りては、更に各州に、その大規模の生産を豫期せられつゝある所の理想的舗装材料である。ビチュマルスはアスファルトの要素たるビチュメンそのもの、乳劑である。誠にその乳液の一滴を吸取紙上に落せば乳劑中の水分は直に分離して紙中に吸収され、紙上には只純粹なるビチュメンのみの残るを見ん。同様にビチュマルスを樽より如罌に移して道路面に撒布せんには、水に等しき流動性を持つて、自由に道路骨材の如何なる小間隙をだも滲透し去つて、その到る所に純アスファルトを分離し沈澱して、其處に最も理想的なる骨材嚙合せの補填を全たからしむるものである。

一言にして之を蔽へばビチュマルスは純アスファルトに或種の酵母を加へて、完全に發酵せしめた如き純アスファルトの溶液である、それは最早何等加熱の面倒もなく、何等面倒な設備と熱續とを要せず、恰も撒水に等しき簡易な勞作の下に極めて無難作に道路骨材の最下層にまで、如何なる薄漠となりて、自由、自由に滲透し能ふと同時に見る／＼變質硬結して純アスファルトに還元し、茲に結合材としてアスファルトの持つ限りの、特質と効能とを發揮し能ふものである。

一、ビチュマルスには全然加熱の必要がない。されば何時にても道路用骨材と、同一温度に於て便利に自由に使用し得るから、最早彼の大袈裟な加熱設備も、周到なる監督の技術も、大切な熟練職工の技能をも必要とばしない。

二、ビチュマルスの撒布には、氣温と濕氣とを顧慮する必要がない。絶對加熱の必要もなく、自由に液狀を爲して流るゝ乳劑には、作業上何等天候に對する懸念もなく、又氣温に對する配慮も入らぬむしろ降雨によつて骨材の汚泥を、自然に洗滌し去つた後が施工上には却て便利な譯である。

三、ビチュマルス注入の眼目は、骨材相互の嚙合せを最も合理的に將た經濟的に確保する。この故に彼の加熱アスファルトの場合の如く、過剰のアスファルトを路上にまで、溢出瀾浸せしむる必要はましてない。最近歐米に於ては寧ろ車馬滑脱の危険を禦ぐが爲に、ビチュマルス注入後の路面に、殊更小碎石面を露出せしめて、その『滑らない路面』を作成するを誇りとしつゝある。

四、ビチュマルスは純ビチュメンの乳劑である。ビチュマルスの製造には、固より精製アスファルトの特に純良なるものを選び、其の針入度百五十度乃至二百度のものを用ひるから、道路用結合材としてのその粘着、並に組織は最も適當である。且乳劑の釀出に要する酵母の如き混和劑は、獨逸に於ける最進の改良發明によりて之を二千分の一にまで減却せしめ得たるを以て、殆んど純ビチュメン以外の何物なだも混入せずと言ふに等しく、從て能く長期間の貯蔵に

堪えて毫も變質することなし。加熱されざるアスファルトの結合力が永久的に變化せるは亦固より周知の事柄である五、ビチュマルス利用の範圍は廣大である。ビチュマルスが

又ば純アスファルト以外の何物でもなく、只之を乳劑たらしめんことに成功したるによりて、その取扱を極めて簡易にその處理も極めて迅速に、且その利用を極めて經濟的ならしめ得たる所以を理解するに於ては、その利用の範圍が前途極めて廣汎なる所以も亦に直ちに會得し得るであらう茲に問題を道路の範圍に限るとしても或は新道路の築造に（骨材の全滲透法）或は既成道路の改良補修に（半滲透法）路面表層のみの鋪裝に（表面處理法）區別するを得て、夫々隨所にその最も適切なる利用を試みるを得べく、或は既存鋪裝の如何なる種類たるを問はずして、その壊滅に瀕した罅穴を填充する場合の如き、恐らく其の作業の餘りに簡單にして、而もその効果の餘りに顯著なるには驚歎せざるを得ざらん。即ち更に之を防水防濕の方面に稽へ、又ば之を電氣絕縁の方面に究め、又ば之を或種塗料の方面に工夫する等漸次一般技術界の要求に向つて、その獨創的用途を立案し來らば、恐らく何人でもその之を知るの一日を緩うせるを悔いざるはなからう。（大阪に據る）

○中等學校地理科設備品最低標準案（一）

本案は名古屋に活動してあられる團員耕崎君等地理學會員の間に於て作成、名古屋市の當局に提出して、少くともこれ丈

けの設備を必要とすると決議した原案である。

地理の特別教室を有する中等學校もしくは、作くらんとする學校に良き參考となるであらうことを信ずる。（藤田）

○本案は師範學校、中學校、高等女學校を基準として作製せるものなるが故に商業學校、工藝學校に於ては多少斟酌すべきものあらんも當府立實業學校は徴兵令及び文官任用令に於て中學校と同等以上と認定せられざるものにて設備に大差あるべからざるものなるべし。

○當市立中等學校中に一部分の設備に於て既に本案の上に出づるものあるは喜ぶべくして決して贅澤なるにあらず、本案は標題の如く最低標準案にして決して理想案にあらず。

○備品の分類に就き別記の如き排列は多少不適當なるものあるべしと雖も相互に相聯關するもの甚だ多く記載の便宜上斯くなせるものに過ぎず。例へば各地質時代を代表する岩石類の如きは一は以て結論たる地質圖を讀むの根本知識であり地形地質乃至地體構造を解し且經濟問題を初め人文上に及ぼす諸現象を推知せしめんが爲の設備なるが故に地誌教授の際準備すべきものにて勿論日本地理の部に記すべきものなるも之を便宜上陸界地理の部に記せるが如きは其の著しき實例なりとす。

目次

甲 地誌……………	七頁
乙 通論……………	六頁

丙 乙以外の備品……………次號
 丁 標具室……………次號
 戊 教室……………次號

甲 地誌之部

日本地理之部

(一) 掛圖類

種 類	員 數	單 價	小 計	備 考
二百萬分ノ一、日本地圖	一	二・〇〇〇	二・〇〇〇	陸地測量部
模範精密、大日本地圖	一	一〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	木崎龍尾
改新大版日本地方別圖	三	二六・〇〇〇	七八・〇〇〇	西田與四郎
愛知縣地圖	一	三・〇〇〇	三・〇〇〇	豐島松治
五萬分ノ一地形圖一色刷	四〇〇	三〇	一・二〇〇	陸地測量部
同 三色刷	四〇〇	一八	七・二〇〇	同
二十萬分ノ一地形圖	二〇〇	三〇	六・〇〇〇	同
二萬五千分ノ一同	一〇〇	一〇	一・〇〇〇	同
二萬分ノ一同	一〇〇	一〇	一・〇〇〇	同
五萬分ノ一大都市近郊圖	九	一六	一・四四〇	同
一萬分ノ一地形圖	五	一三	六・五〇〇	同
一萬分ノ一關東州地形圖	三	四五	一・三五〇	同
一萬分ノ一京都近郊圖	四	五〇	二・〇〇〇	同着色ノモノ
百萬分ノ一萬國圖	五	一・〇〇〇	五・〇〇〇	同但既刊三枚ノミ
大日本地圖(四枚一組)	一	六・五〇〇	六・五〇〇	地質調査所

日本ノ火山地震及海嘯分布圖	一	二・五〇〇	二・五〇〇	大阪集書堂
劍埼至御前埼	一	一・五〇〇	一・五〇〇	水路部
伊勢海三河灣	一	一・五〇〇	一・五〇〇	同
漢江近海	一	一・五〇〇	一・五〇〇	同
日本總部及附近諸海(二枚一組)	二	一・五〇〇	三・〇〇〇	同
北太平洋海流圖	四	三〇〇	一・二〇〇	同
日本南方海面海流圖	四	三〇〇	一・二〇〇	同
日本近海氣象海流圖	一	三・五〇〇	三・五〇〇	同
北太平洋ノ氣象圖	四	三〇〇	一・二〇〇	同
北太平洋ノ天氣圖	四	二・〇〇〇	八・〇〇〇	同
日本ノ地質鐵產圖	一	二・五〇〇	二・五〇〇	大阪集書堂
日本農業地圖	一冊	一・〇〇〇	一・〇〇〇	帝國農會
日本都市別人口分布圖	一	一五・〇〇〇	一五・〇〇〇	小野鐵二
東北地方人口分布圖	一	(非常品)		齊藤報恩會
近畿地方市町村別人口分布圖	一	未刊		小野鐵二
日本人口分布圖	一組	七五〇	七五〇	田中、山本
世界航路圖	一	(非賣品)		大阪商船會社
球狀式日本帝國附近地理模型	一	一五・〇〇〇	一五・〇〇〇	學海指針社
日本地理模型	二	平均 三八・〇〇〇	三八・〇〇〇	學海指針社
愛知縣地理模型	一	三三・〇〇〇	三三・〇〇〇	其ノ他 澤

(二) 模型類

關東中部地質模型	一	七五・〇〇〇	七五・〇〇〇	學海指針社
阿蘇火山切斷模型	一	一六・〇〇〇	二・〇〇〇	學海指針社 其ノ他
日本塗板地圖	二	一〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	八神理化部
鍍山模 型	一	一六・〇〇〇	一六・〇〇〇	學海指針社
天日製鹽山模型(二組)	一	一五・〇〇〇	一五・〇〇〇	同
橫濱港ノ模型	一	二五・〇〇〇	二五・〇〇〇	同
(三) 標 本				
日本各地方別物産(標本)	三組平均	二六・〇〇〇	二六・〇〇〇	學海指針社
(我南洋ヲ含ム)	三組平均	二六・〇〇〇	二六・〇〇〇	同
日本重要輸出品(標本)	一組	六・〇〇〇	六・〇〇〇	同
輸入品(標本)	一組	六・〇〇〇	六・〇〇〇	同
日本産建築石材(標本)	四	一・〇〇〇	八〇・〇〇〇	二十種四十個 即チ原料石ト 製品ト各一 個宛
日本産硯石及 飾石材	四	一・〇〇〇	八〇・〇〇〇	同
(四) 寫 真 類				
日本地理大寫真集 (内地ノ部)	六十枚 一組	二五・〇〇〇	二五・〇〇〇	東京 橋爪
同上(新開地ノ部)	六十枚 一組	二五・〇〇〇	二五・〇〇〇	同
幻燈用寫真原版	三〇	八〇〇	六・〇〇〇	島 津
繪葉書寫真類	五〇〇	〇五〇	三三・〇〇〇	同
日本地理合計壹千八百七拾圓六拾四錢也				
外國地理之部				

(一) 掛 圖 類				
改造世界大地圖	一	二五・〇〇〇	二五・〇〇〇	小川琢治
兩 半 球 圖	一	六・〇〇〇	六・〇〇〇	同
世界掛圖部分圖	七	六・〇〇〇	四二・〇〇〇	同
世界現・勢圖	一	一〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	木崎龍尾
世界産業交通圖	一	一〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	同
東亞大陸圖(四枚一組)	一	二・〇〇〇	二・〇〇〇	陸地測量部
シヨンスト				
コンマ・シヤル・ア・ンド	一	二七・〇〇〇	二七・〇〇〇	英國製丸善扱
ライブラリー・チャート				
オプザヴァールド				
スタンフ・オード				
ライブラリー・オプザ	六	三・〇〇〇	一六・〇〇〇	同
エーロツツ	六	三・〇〇〇	一八・〇〇〇	ドイツ製 丸 善 扱
シドーハー・ベニヒト	六	三・〇〇〇	一八・〇〇〇	同
オイロツツ	六	三・〇〇〇	一八・〇〇〇	同
フイリツツ	六	三・〇〇〇	一八・〇〇〇	同
コンバラチア・マップ	六	三・〇〇〇	一八・〇〇〇	同
オプザヴァールド	六	三・〇〇〇	一八・〇〇〇	同
スタンフ・オード	一	三・〇〇〇	三・〇〇〇	同
オプザヴァールド	一	三・〇〇〇	三・〇〇〇	同
百萬分ノ一・イン・ター	二〇	二・〇〇〇	二〇・〇〇〇	スタンフ・オ
ナシヨナル・マップ	二〇	二・〇〇〇	二〇・〇〇〇	下販賣丸善扱
百萬分ノ一東亞輿地圖	二〇	二・〇〇〇	二〇・〇〇〇	陸地測量部
世界火山地震及海嘯	一	二・五〇〇	二・五〇〇	大阪集書堂
分布圖	一	二・五〇〇	二・五〇〇	同
印度洋及濠洲近海々	二	二・〇〇〇	二・〇〇〇	水路 部

同氣象圖

二 300 600 同

太平洋

一 1,000 1,500 同

世界ノ等溫線圖

一 2,500 2,500 大阪集書堂

世界ノ氣壓風向圖

一 2,500 2,500 同

世界の雨量及海流圖

一 2,500 2,500 同

ツヨクストン植

一 1,500 1,500 英國製丸善拔

同動物分布圖

一 1,500 1,500 同

同動物分布圖

一 1,000 1,000 大阪集書堂

珊瑚礁圖

一 1,500 1,500 水路部

北太平洋大圈航法圖

一 1,500 1,500 同

南太平洋大圈航法圖

一 1,500 1,500 同

世界汽船航路圖

一 1,500 1,500 同

世界電信線路圖

一 2,500 2,500 大阪集書堂

世界人種分布圖

一 2,500 2,500 同

同人口密度分布圖

一 2,500 2,500 同

同宗教分布圖

一 2,500 2,500 同

球狀式地理模型(歐州)

一 6,000 6,000 學海指針社

同支那、南北米、大洋

五 5,000 5,000 同

アフリカ

一 2,500 2,500 中澤

滿洲地理模型

一 2,500 2,500 同

塗板地圖

六 1,000 6,000 八神理化部

パナマ運河模型

一 10,000 10,000 同

スエズ運河模型

一 16,000 16,000 同

(三) 標本

熱帶植物(標本)

三 3,000 3,000 土屋

寒帶植物(標本)

三 2,000 2,000 同

世界物産(標本)第一輯

一 4,000 4,000 同

世界物産(標本)第二輯

一 4,000 4,000 同

支那物産(標本)

一 1,500 1,500 土屋其ノ他

滿蒙物産(標本)

一 1,500 1,500 土屋其ノ他

世界大寫真集(百枚)

一 3,000 3,000 橋爪

世界動物寫真集(四十五枚)

一 3,000 3,000 同

幻燈用寫真原板

二 1,000 1,000 島津其ノ他

繪葉書寫真類

二 100 100 松村

世界人種實觀

一 3,000 3,000 瞭

外國地理合計壹千八百四拾壹圓貳拾錢也

地誌果計 參千七百拾壹圓八拾四錢也

乙 通論之部

地球星學之部

(一) 機械器具類

種別

員數

單價

小計

備考

天球儀

一 3,500 3,500 八神理化部

地球儀

一 2,600 2,600 島津

地球正轉器	一	二五・〇〇〇	二五・〇〇〇	遠日近日點ノ ワカルモノ 東京々橋 近藤定吉
轉坤儀	一	一五・〇〇〇	一五・〇〇〇	學海指針社
月の運動説明器	一	四〇・〇〇〇	四〇・〇〇〇	中澤
日時計	一	二二・〇〇〇	二二・〇〇〇	八神其ノ他
太陽高度測定器	一	八・〇〇〇	八・〇〇〇	同
南日法簡便測緯器	一	一五・〇〇〇	一五・〇〇〇	西村萬壽土屋
北極星法簡便測緯器	一	一〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	同 (土屋)
二千五百萬分ノ一 地形式地球儀	一	一五・〇〇〇	一五・〇〇〇	學海指針社
數理地球儀	一	五〇・〇〇〇	五〇・〇〇〇	聯邦社
星座早見	一	一・〇〇〇	一・〇〇〇	日本天文學會
天文望遠鏡	一	二五・〇〇〇	二五・〇〇〇	エミールブツ シユ製島津坂
(二) 掛圖類				
太陽恒星及諸遊星圖	一	二五・〇〇〇	二五・〇〇〇	大阪集書堂
四季晝夜經緯度 及方位ノ圖	一	二五・〇〇〇	二五・〇〇〇	同
月ノ實體其ノ盈虛並 二日日月蝕圖	一	二五・〇〇〇	二五・〇〇〇	同
太陽地球七遊星 ノ面積及重力	一	一・〇〇〇	一・〇〇〇	同
地殼生成斷面圖	一	一・〇〇〇	一・〇〇〇	同

雜報

世界磁針偏差圖

一 一・五〇〇 一・五〇〇 水路部

(三) 地球ノ構造ヲ示ス標本

ニフエヲ代表スルモノ(代用品等)

A 隕石類 二 二〇・〇〇〇 二〇・〇〇〇 隕石及ビ隕鐵
各一個

B 其ノ他 二 二・〇〇〇 四・〇〇〇 火成岩ト共ニ
出タ鐵鑛等

シマヲ代表スル岩石 四 一・〇〇〇 四・〇〇〇 玄武岩二個、
板岩、蛇紋
岩、各一個

シアルヲ代表スル岩石 五 一・〇〇〇 五・〇〇〇 片麻岩二個、
粗面岩、石英
岩各一個

地球星學合計七百參拾四圓七拾錢也

質疑應答

【問】歐洲の黄土(Loess)及黒土(Black earth)の成因に
關スル(賤卓 年路生)

【答】歐洲のレスの成因について最も廣く行はれて居る説は乾泥又は沙漠の細砂が風に吹き飛ばされて乾燥した平地に堆積されたものであるといふ所謂風成説である。この説はまづ定説と云つてもよい位なものであるが、今でもレス問題は論議されるのである。最近ロシアのヘルグによつて説へられた一新説を略述して、現在のレス問題がどんなものであるか